中央公民館をとりこわし役場庁舎を増築

工事は9月から来年3月まで

今年度、町は役場に隣接する黒埼町公民館（中央公民館）をとりこわし、役場庁舎を増改築します。

◆分室を統合し利用しやすく機能的な役場に

これまで建設課・農政課などが分室となっていて、役場を利用される皆さんにお手数をおかけしていました。

町では庁舎検討委員会を役場内で設け、機能的で利用しやすい役場庁舎とするにはどうしたらいいか、検討してきました。また、議会でも総合庁舎建設調査特別委員会をはじめ、全員協議会を開催するなど検討してきました。

その結果、役場に隣接した中央公民館をとりこわし、公民館の機能も備えた庁舎を増築することにしました。この増改築でガス水道局と一部の出先を除き、一つの庁舎にまとまることになります。

中央公民館をとりこわした後に増築される庁舎は鉄骨三階建てで、延べ床面積は約二〇〇〇平方メートル。工事費は、議会六月定例会で一般会計補正予算として議決されています。

計画では、一階は駐車場と機械室、倉庫になります。二階に講堂と会議室二部屋があり、とりこわされる公民館の機能を果たします。事務室が二階と三階になります。

庁舎外にあった農政課、建設課、町史編さん課教育委員会が入る予定になっています。

また、旧庁舎の二階は、議会の委員会室として、改装されます。

◆中央公民館が使用できるのは8月20日まで

中央公民館のとりこわし工事、役場庁舎の増改築工事は九月初めから始まります。そのため、中央公民館の使用は八月二十日(日)までです。それ以降は中央公民館の利用はできません。

問い合わせは、教育委員会社会教育課（☎三七七－五二一一）まで。

とりこわされる中央公民館

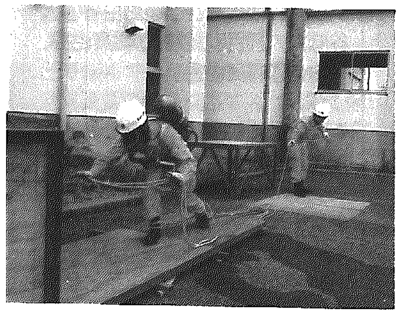
町の動き

町政の動きについてお知らせします。

救助技術大会で入賞

七月十一日(火)、第六回新潟県消防技術大会が、新潟市曽和の新潟県消防学校で行われました。この大会は九種目について、安全性、確実性、迅速性を競うものです。県内三十五消防本部から四百六人の精鋭が参加しました。

黒埼町消防署からは「ほふく救出」に二チームが出場、うち一チームが入賞を果たしました。（消防署）



短信

6月15日～7月15日

▼6月24日町村会定例会（巻町、町長出席）▼28日県防犯協会総会（県庁、町長出席）入札（総務課）▼30日農業委員会（農政課）▼7月2日下越地区ゲートボール大会（善久河川敷）君前知事県民葬（新潟市、町長出席）▼4日県公民館振興市町村長連盟総会（新潟市、助役出席）▼5日課長会議、入札（総務課）▼6日郡内助役部会（巻町、助役出席）▼10日総務文教委員協議会（議会）新々バイパス期成同盟総会（新発田市、町長出席）河川治水期成同盟総会（新潟市、助役出席）▼11日露店市場管理運営委員会（商工振興課）▼13日県広報協議会理事会（新潟市、町長出席）▼14日食と緑の博覧会開会式（新潟市、助役出席）

入札結果

工事名	工事者	請負額	入札日	完工（成）期限
大野都市下水路大野2号幹線築造（第5工区）工事	(有) 笹川組	24,205千円	6月21日	10月31日
大野都市下水路大野2号幹線築造（第6工区）工事	(株) 石附組	31,106	6月21日	11月24日
大野都市下水路大野2号幹線築造（第7工区）工事	(株) 樋口組	16,068	6月21日	11月28日
大野都市下水路前川原幹線築造（第4工区）工事	(株) 国土	31,466.5	6月21日	11月29日
大野都市下水路前川原幹線築造（第5工区）工事	(株) 赤川組	24,514	6月21日	11月13日
山田1号排水幹線浚渫工事	新潟特殊企業(株)	2,163	6月28日	7月17日

黒埼町をこんな町にしたい、それにはこうすれば…
あなたのアイディアをお寄せください。
電話でもハガキでも結構です

（ふるさと創生1億円については広報くろさき6月号をご覧ください）

ふるさと創生1億円にあなたのアイディアを

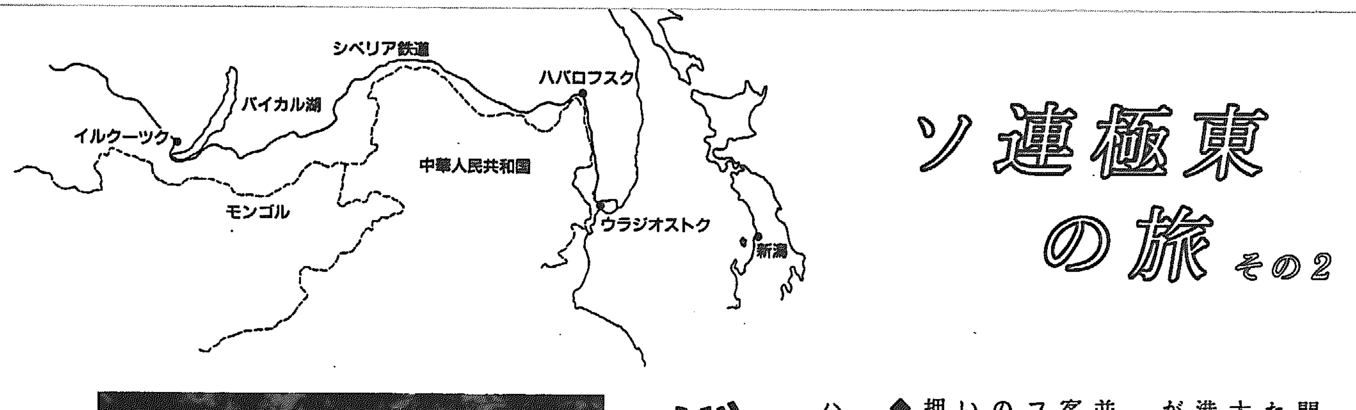
アイディアの送り先
黒埼町大野2843 役場企画開発課
（☎377-3101 内線46）

成人式 20

8月15日午後1時～
環境改善センター（体育館隣）

帰省中の人も出席してください。

ソ連極東の旅 その2



バイカル湖の雄大さに感動

ウラジオストク市での三日間の滞在では、我々が予想した以上に、外国人に対して寛大であった。街中はおろか、港でも写真を自由に撮ることが許された。

ウラジオストクの美しい街並みや港は、写真好きの観光客にとっては、格好のモチーフとなるのではないか。小生のようなカメラオンチでも、いたるところでシャッターを押す衝動にかられた。

◆ハバロフスクで墓参

五月十九日午前十時三十分ハバロフスク駅に到着。

前日は、いつまでも暮れようとして暮れない白夜の中、夜汽車の窓から走り去っていくシベリア原野を夜の更けるのも忘れて眺めての鉄路の旅だった。（シベリア鉄道はモスクワまで六日間を要するという）

さて、ハバロフスク市はご存じのとおり、新潟市と姉妹都市を締結しており、定期航空便も開通していて、本県とはなじみが深いため、紹介は割愛させていただく。

市内見学の後、ハバロフスク市郊外にある外人墓地へ墓参した。小雨けむる夕刻の墓地に線香を供え、厳粛な気持ちで、故国にかえることなく異国の地に永遠の眠りについている同胞の霊に合掌した。

◆イルクーツク市へ

同日の夜十時、ハバロフスク空港からアエロフロート機で、イルクーツク市へ向かった。しかし、途中、目的地の空港の事情により、ブリヤト自治共和国のウランウデ空港に着陸し、そこから三機のプロペラ機に分乗して、翌朝の明け方三時半、イルクーツク市のホテルに到着した。

イルクーツク市は、バイカル湖から市内へ流れ込むアンガラ川の豊富な水を利用しての、東シベリア地方屈指の工業都市であるとともに、シベリア鉄道の中継点でもある。古くはシベリア地方の流刑の地であったとされるが、十七世紀にコザック人によって開発された古都である。近年は経済・文化の中心地となり、ヨーロッパ風の建物が多い。

落着いたたたずまいに、古い寺院も多く、日本の京都を彷彿させる趣のある街であった。金沢市と姉妹都市を結んでおり、市の中心地に「カナザワ通り」もあると聞かされた。最近、観光地として脚光を浴び、年々外国人観光客も増加しているという。

市内は緑豊かな公園や街路樹が多く、古いヨーロッパ風の建築物と調和し、訪れる観光客を魅了しているのではないだろうか。実際、街中には観光客の姿も多く見受けられ、商店街も賑わっている。人口も五十八万人と多く、年々発展増加しているという。

◆シベリアの真珠バイカル湖

その日（二十日）の午後、イルクーツクから七十キロの郊外にあるバイカル湖へと向った。シベリアの真珠と呼ばれ、琵琶湖の五十倍の広さを持つ世界一深い湖である。

バイカル湖へは、シベリア地方特有のタイガ地帯の中を真直ぐに伸びた国道を、バスで向かった。時速百キロ前後の猛スピードである。

途中、タイガの中に点在する国営農場や白樺林に囲まれた別荘も見ることができた。真冬にはマイナス六十度まで気温が下がり、夏冬の温度差が九十度にもなると聞いて、シベリアの苛酷な気象条件に今さらながらに一同驚嘆し、この地に生活する人々のたくましさに感服した。

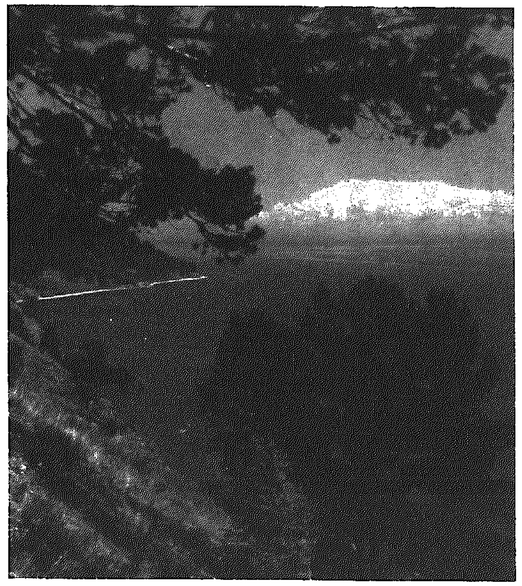
バイカル湖畔に立って、その余りのスケールの大きさに驚きと感動をおぼえた。日本の観光地には見られない雄大な自然美を堪能することができた。

世界一の透明度を誇る湖水の素晴らしさと冷たさに、思わず手ですくって口にした。誰からともなく出た「この水を日本に持って帰って、名水として販売したら、さぞかし受けるだろうな」ということばの、日本人特有の経済感覚のタクマシさに、一同思わず苦笑した。

バイカル湖からイルクーツク市への帰路は、広大な川幅を有するアンガラ川を船で下った。

いよいよ明後日には新潟へ帰れると思うとなかなか眠れず、せめて今宵は白夜とともに過ごそうと、アンガラ川の河面を眺めながらシベリヤの夜を過ごし、翌朝、イルクーツクの街をあとにした。

（終わり）



バイカル湖（絵ハガキから）

イルクーツク市内